第２回二宮町総合教育会議　会議録

開催日時	令和２年８月 21 日 金曜日　　13 時 30 分から 14 時 55 分まで
開催場所	役場第一委員会室
出席者	村田邦子町長、森英夫教育長、山内みどり教育長職務代理者、 岡野敏彦教育委員、渡辺優子教育委員、野谷悦教育委員
町部局	政策担当部長
教育委員会	教育部長、教育総務課長、生涯学習課長、教育総務課長代理、教育総務班長
その他	傍聴　５人

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

会議記録

１．開会

（司会：教育部長）

開会にあたり、司会（教育部長）より会議の公開を諮る。

－許可、傍聴者入室、着席－

２．町長挨拶

（町長）

今年度２回目の総合教育会議を開催します。前回はまだ学校が休業期間中で、その後、学校が無事再開されました。ただ、まだ新型コロナウイルスについては落ち着いてない状況です。「with コロナ」という新しい生活様式の中で子どもたちが安全で安心して学校や地域で過ごすことができるかという点については、何か先進事例があるわけではありません。これは今後、私たちが作り上げていかなければならないものです。今回の会議の中で事務局からは学校の様子などの説明もあるかと思います。教育委員の皆様にはそれぞれの専門分野で子どもの安全・安心な環境づくり、またこれに関連して秋には来年度の予算編成も出てまいりますので、ご意見をお願いします。

３．協議・調整事項

（町長）

本日は二つの協議調整事項を予定しています。まずは一つ目ですが学校教育関連になります。学校再開後の様子について写真なども確認していただき、今後

の方向性について意見交換させていただきたいと考えています。

―事務局より説明―

（町長）
　事務局より子どもたちの学習状況、全般的な学校での様子、学校行事の状況について説明をしました。教育委員の皆様の方でも把握されている情報等があると思いますが、それらを踏まえご意見を伺いたいと思います。

（山内委員）
　先月、二宮小学校と二宮中学校を訪問し、両校に共通して何よりも良かったことはエアコンが設置されたことです。現場の先生方も言われていたことですが、エアコンがなければこの酷暑の中、学校を再開することは難しかったのではないかと思いました。実際に訪問して大きく感じた点は、１つ目は教室の密の度あいです。小学校は教室のスペースにも余裕があったように感じましたが、中学生は体の大きさも異なり、特に３年生のクラスでは教室の狭さを感じました。私の勤務先は都心で感染者も多く、講義は原則オンライン、個人レッスンも換気の時間をきちんと決めています。授業時間も短縮し、パーティションで区切っており、とても厳重です。同じく都心の小中学校では、三密にはとても神経質になっているようです。二宮町では都心に比べるとまだ感染が身近ではない状況だと思いますが、中学校の高学年では教室という限られた空間で生徒間の距離を取ろうとしているがために無理が生じているのではないかと感じました。給食の時間では廊下を使って配膳をしていましたが、教室内は感染防止のための統率が取れていないように感じました。子ども同士でおしゃべりをしたり、ふざけあいたくなる気持ちはわかりますが、今は何よりも感染防止を最優先にして行動すべき時ではないかと感じました。２つ目は先生方が本当に忙しくされており、感染対策に追われている印象でした。神奈川県の加配予算について近隣自治体では人材の確保が難しい状況であると聞いている中で二宮町では素早く対応し、各校 3 名程度の人員配置ができたということでとても良かったと思います。この方々をうまく活用して、先生方が本来業務である教えることに少しでも集中できる環境を作っていけないかと思いました。人手が不足しているのであれば感染防止をした上で地域の方々へも協力をしていただくことはできないのかなとも思い、とにかく現場の先生方を継続的にフォローすることが必要だと感じました。

（町長）

学校訪問をされたのは７月で給食も再開された後とのことでしたが、中学生の教室の密状況については確かに心配すべきところだと思います。また神奈川県の学習指導員については、教員免許を持っている方の人探しが難しければ学生の方などの採用も可能とのことでした。またスクールサポートスタッフについても広く学校の業務に携わっていただけるということで利用できるものはどんどん利用した方が良いと思います。毎年、町としても県・国に対して要望を提出するのですが、今年は特に教育委員会の関係は要望事項が多いように思います。何しろ人員の面では特に強く要望していきたいと考えています。また、町費で配置している人員についても町としてしっかりと予算を付けて、人を減らすことがないようサポートしていきたいと考えています。

（野谷委員）

今、各校にはコロナ加配の臨任が１名、学習指導員が１名、スクールサポートスタッフが１名配置されているとのことで、他自治体と比較しても二宮町の充足率は高いとのことでした。また二宮町では支援教育補助員の配置割合が近隣の市町に比べても高いということは誇るべきところですが、それでも学校現場は人が足りない、というのが正直な状況だと思います。人集めを含め、財政的な部分でもあらゆるところのバックアップが、今まさに必要な時なのではないかと思います。

（町長）

確かに国や県で予算を付けていただいたからといって人探しの面でつまづいては結果、意味がなくなってしまうので、そういう意味では様々な方法をつかってしっかりと人の手配ができるようにしていくことは大切なことだと思います。またコミュニティ・スクールでは８月補正で寺子屋のような地域の方が学習の定着が遅れている子どもに対して補習をしていただけるような予算も確保させていただきました。そういったことも活用しながら、学校をサポートしていければと考えています。

（渡辺委員）

３か月の休業のあと、６月から分散登校が始まりました。私のまわりでは夏前に１日でも多く学校へ行き、夏休みを多くとった方が良いのではという意見もありました。私自身は６月から分散登校で少しずつ学校へ慣れていったやり方はとても良かったと思います。６月の終わりには通常登校に戻ったわけですが、梅雨の時期や夏の酷暑の大変な時期に子どもたちが毎日学校へ通っている姿を見て、とても頑張っているなと思いました。県の加配予算を利用して人員の配置

ができたことはとても良かったと思いますが、学校現場は人が不足しているということには、その通りだと思います。これは子どもたちにとってもいえることではないかと思います。必要な人材を学校へ配置し、学校現場がより良い環境になることを願っています。先日、学校訪問をさせていただいた時の印象ですが、やはりエアコンが設置されたことは大変良かったなと思います。換気をしつつも、しっかりと室温が管理されており、落ち着いた環境の中で子どもたちも学習に取組めているなと感じることができました。小学校では楽しそうな表情をしている子が多いことが印象的だった一方で中学校では教室の密具合が気になりました。そのことが子どものストレスに繋がっていたり、勉強の難しさに対してのプレッシャーを感じているのではないかと思います。そのようなことに対しても取組んでいければ良いなと思いました。

（森教育長）
　中学生への配慮という点では二宮西中学校では夏休み明け早々に生徒と先生間で二者面談をしていますし、新１年生に対しては校長先生が自ら面談をしているそうです。また山西小学校でも先生が児童と面接をして夏休み明けの子どもたちの様子の把握に努めているところです。

（町長）
　校長先生が直接面談をするということはユニークな取組みだと思いました。子どもによっては逆に担任の先生には話しづらいことも話ができるといったこともあるだろうと思います。個人差はあると思いますが、様々なアプローチで柔軟に子どもの様子を伺うことが大切なことだと思います。

（岡野委員）
　私は今回の休業期間により大きく前進できた部分もあったのではないかなと思います。具体的には学校ホームページが開設できたこと、タブレットの１人１台環境が整備できる見通しができたことなどです。これらはコロナ禍ではなくても避けて通ることができないことだったとは思いますが、コロナ禍をきっかけに大きく前進できたことだと思います。特に学校のホームページについてはゴールデンウィーク明けからコンテンツについてもかなり充実されてきたように思います。今後は情報の受け手の立場からホームページを運営していくことについても考えを及ばせていく段階になってくるのではないかと思います。ＩＣＴの面ではスタートは切れたと思いますので、今後は継続的に財政面や運用面から支えていく必要があるのではないかと思います。

（町長）
　学校ホームページについては、私の１期目から大きな課題との認識でしたが、ようやく開設することができました。内容のバラつきもあったようですが、それが逆に学校の特色であるのかなとも思いました。また Facebook についても学校教育関連はとても頻繁に投稿しており、他課の投稿よりも多く閲覧されています。保護者といえども学校の様子は詳しくは把握されていないと思いますし、それが一般町民の方ともなれば尚更です。二宮町ではコミュニティ・スクールの取組みを進めていますが、前提として情報が共有されることがとても大切なことだと思います。これが継続されることで次のステップに繋がっていくのではないかと思います。またタブレットについても１人１台の整備の見通しがついたことで、今後も町として必要なサポートはしていきたいと考えています。先生方も研修などを通じて覚えることも多く大変だと思いますが、１人１台環境になった際の二宮町らしい活用方法を私自身も楽しみにしています。

（岡野委員）
　タブレットが整備されたからといって必ずしもそれを使わなければいけないということではないと考えています。使わなければいけないということがプレッシャーになってしまっては元も子もないわけで、選択肢が増えたという表現が正確なのかなと思います。従来のやり方が良いのであればそうすれば良いし、タブレットを使うことでいままでできなかったことができるようになるとか見えなかったことが見えるようになる、効率を上げられるといったことであれば活用していけば良いし、そこに導入することの意義があるように思います。

（森教育長）
　ＩＣＴが普及されることが悪いことではないと考えています。ただ、実体験に勝るものなしで、実際に体験できることが一番貴重で大切なことだと思います。ＩＣＴでできなかったことができるようになる、見えなかったことが見えるようになるということも大切ですが、一方でＩＣＴではできない集団生活の中でしか体験しえないこともあると思います。そういったところこそ学校が子どもたちに教える真に大切な部分だと思います。

（野谷委員）
　私は教員出身ですが、タブレットが一気に入ってきて、さぁ、授業をしようといっても困ってしまうなというのが正直なところです。ただし、可能性も感じています。学校休業中に双方向のオンライン授業ができた学校の割合は全国でも数パーセントだと言われており、ほとんどができていなかったという現実があ

ります。そういったことを見てもすぐにオンライン授業ができるとかＩＣＴが使えるという状況にはならないと思います。ただ、またいつ休業になるかもしれない可能性がある中で子どもたちと先生が双方向でつながることができるようにはしていくべきだし、ＩＣＴによる新しい授業の在り方については、学校が再開されたことに安心しないでしっかりと準備を進めていただきたいと思います。

（町長）
今年度はハードの整備を進める一方で次年度はソフトウェアをどうするかといった検討になると思います。これについても二宮町らしさということを念頭に検討していっていただきたいと思います。また町としてもそのための財政的な支援はしっかりとサポートしていきたいと考えています。最近では文部科学省も中学校へのスマートフォンの持ち込みを許可するという方針も打ち出されています。そういった動向を見ても学校へのＩＣＴ化という流れは止めることができないものだと思いますが、一方でＳＮＳなどの問題もあることから情報モラルという点についても気を配っていかなければいけない問題だと思います。

（野谷委員）
コロナ禍により見えてきたものもあって、二宮小学校では放送設備が老朽化しているということがあります。普段であれば我慢して使うところですがコロナ禍にあっては一同に集まることが難しくなり、放送設備の重要性が高まっています。また二宮中学校は水道の数が足りないという点です。小学校で水道の数が足りないとすぐに問題になります。これは図工などの授業で水道を使うことが多いからです。教室の前の水道で時間がかかると水道の数が足りないということになるわけです。一方、中学校は美術をやる時は特別教室を利用します。美術室の中で完結できていたわけですが、コロナ禍では密対策の面からも課題が見えてきたわけです。そのような問題・課題をもう一度、再点検していただきたいと考えています。

（町長）
学校施設については、現在現況調査をしているところです。躯体の調査とともに設備の調査もしているところで、その中で検討する事項が見えてくることになると思います。

（山内委員）
水道については、現在の新型コロナウイルスの状況も踏まえると最優先で対応をすべきところだと思います。5月の総合教育会議の際にはピンチをチャンス

にと村田町長も言われ、本当にそのとおりだと思いました。このような状況だからこそスピード感を持って取り組めることもあると思います。委員会も力を入れて進めているコミュニティ・スクールや小中一貫教育についても本質が見えてきて取捨選択しながら進めていけるような状況になると良いと思います。

（教育長）
昨年度の小中一貫教育校設置計画（案）説明会の際に参加された町民の方からは先進自治体の視察もやってほしいといった声をいただきました。教育委員会としても視察もやっていこうとしていたのですが新型コロナの影響もあり、残念ながらできておりません。ただし、今日の午前中の教育委員会定例会の中で今年度から勤務されている小中一貫教育の専門員の方に子どもたちの学びの保障に対して小中一貫教育の 9 年間のカリキュラムによる 3 つの推進事項を 3 本の矢ということで現在取組んでいただいていることについて説明をしていただきました。このような状況だからこそ進められることもあると思いますのでピンチをチャンスにという意識を持って進めていきたいと考えています。

（町長）
午前中には小中一貫教育研究員による講義もあったとのことで、私も後ほど勉強したいと思います。小中一貫教育については 3 つのことを中心に進めることで一人も見捨てられない教育集団をつくっていくということですが、ICT 教育が新しい教育として脚光を浴びる一方で、読解力などの基礎学力をしっかりと身に着けさせることが大切という確認があったということですね。小中一貫教育校についてはコロナの影響により教育環境も様々に変化せざるをえない状況だと思いますが、基本を大切にして着実に進めていっていただきたいと考えています。先ほど中学校では密な状態が起きているとのことでしたが、授業によっては教室を分けるなどの対処方法は考えられると思いますが、例えば二宮小学校では空き教室がないという状況もあります。他の学校では空き教室もあるわけですからバランスを考慮して学区再編ということも一つの可能性として考えられるのではないかと思います。このような状況を受けて変化するところは変化しなければいけないと思っています。

（岡野委員）
小中一貫教育校の話がでましたが、今回、学校が休業になったことで短縮カリキュラムにならざるをえなかったのですが、これは重要な項目に絞らざるを得ないということが表現として適切ではないかと思います。例えばこの重要な項目が小中一貫教育をする上での重要ポイントに移行するのではないかと思いま

す。今回の状況を糧に小中一貫教育のカリキュラム研究に活かしていくべきだと思います。小中一貫教育では小学校と中学校の接続部分が大切なところで力を注いでいくところでもあるとは思いますが、小・中学校それぞれの期間の中で力を注いでいくべきところがあると思います。これまで取組んできたことも、今の状況に活きていることもあると思いますし、今の取組みが今後の小中一貫教育へ必ず繋がっていくと思います。例えば先ほど中学校の密の話がでましたが、それであれば教室を二つにわけてオンラインでつなぐということも考えられるわけで、常識にとらわれすぎることなく、これまでできなかったことができる環境にもなってきたわけですから、一見できそうにないこともやってみようという心意気で取組んでいっていただきたいと思いますし、そのことが二宮町の教育の特色にもつながってくるのではないかと思います。

（町長）

今、まさに学校の先生方も試行錯誤しながら、色々なチャレンジをされているところだと思いますし、臆せず取組んでいただきたいと思います。話は変わりますが資料の中にガラスのうさぎの写真があります。本来であれば今年度から小学校 6 年生と中学生が式典に参加して、このイベントの意義を感じていただくことになっていましたが、今年度は式典が中止になりました。この式典は年に 1 度、子どもたちが経験していない戦争という出来事を身近に感じる素晴らしい機会だと捉えています。来年度以降、この式典をどう実施するのかについては色々な方からアイデアをもらって検討していきたいと思います。先日、二宮小学校で戦時下の話をしていただける団体の方々が私を訪ねてきてくださったのですが、高齢でいつまで活動を続けられるかどうかわからないとのことで本をつくってくれました。またこの本を各学校へ渡したいとおっしゃっていましたので、そういった方々の思いもしっかりと引き継いでいきたいと思います。

（山内委員）

この式典はみんなでガラスのうさぎの歌を歌ったり、式典を通じて戦争という悲惨な体験を考えたり、私自身もゲストティーチャーで歌の指導をしましたが様々な世代が交流する機会を作ってくれます。今回のコロナ禍を受けて都心から移住されてくる方も増えてくるのではないかと思います。そういった中でこの式典は二宮町にはガラスのうさぎというストーリーがあったところだという町のプロフィールになるわけです。二宮町へ移り住む方々のためにも決して絶やすことなく次に繋げていかなければならないものだと思います。

（町長）

ガラスのうさぎの式典については今後、次年度に向けてどのようなやり方があるのか考えていきたいと思います。次に生涯学習の方に移ります。

―生涯学習課長から資料説明―

（町長）
文化・芸術については施設自体が休館していたこともあり自粛状態が続いています。スポーツの方は施設が開放されてから、日中、夜と皆様に活発に活動されているという印象です。生涯学習・スポーツの面で何かご意見はありますか。

（山内委員）
コロナ禍になって本当にテレワークが増え、この町で心地よく過ごすということはこれからの町づくりの大きな目標になってくると考えます。この町は自然も豊かで、教育も盛んな町です。今、町長からもスポーツは施設再開後に盛んに活動されているとのことでしたが、音楽の方は引き続き難しい状況が続いています。私は音楽を教える身ですが、まず一か所に集まって歌うということはできません。データを送って個々に練習させるといったことでしか動くことができないのが実情です。この町は合唱団がとても多く、気候が落ち着いてきたら、感染にも配慮しながら、町民運動場や東大跡地などで徐々に活動が再開できたらうれしいと思います。屋内、特にラディアンのホールは用途からしても気を付けなければならない場所だと思います。自粛はしても委縮はしないようにしていきたいと思っています。

（野谷委員）
屋外は安心だということですが、外のイベントでも私は少し心配です。私も葛川探検のイベントを企画していますが、外であれば安全である確率は高いだろうとは思います。ただ、それでも人と人との接触はあります。開会式を短くやったり、密にならないように回数を増やすとか役場の方でも消毒液を多く用意してくれたりして何とかやっています。山内委員が言われたとおり、この現状の中でいかに工夫をしてやっていくかということが大切だと思います。

（町長）
今年度はラディアン開館 20 周年にあたる年で、本来であれば今年度にイベントを行う予定でしたが、来年度に延期されることになりました。１年先に延期はされましたがそれでも内容をこれから決めていかなければならないという状況です。今はホールの定員は１００名です。果たして１年後にその定員であの空間

の中で歌を歌ったり、演奏をしたりということができる状況にはなっていないのではないかと心配をしています。そのような中で各団体の方々も活動をされているところだと思いますので、発表の場や機会を町がどう提供していくかということは課題になっているところです。無観客やオンラインなども考えられますが、各団体の方々とも意見を交わしながら良い方法を探っていきたいと考えています。話の方向が変わりますが、ラディアンでも老朽化が進み、現在建物自体の調査が進んでいます。調査の結果を確認しながら、これからも施設を安全に維持していき、イベントの場、コミュニティの交流の場としての機会を町としても提供していけるようにしていきたいと考えています。
最後に全体的なところで何かご意見はありますか。

（教育長）
　様々なことが止まってしまっていますがピンチをチャンスにということで、止まってしまっている状況をどう前に動かしていくかということを改めて考えていきたいと思います。次回の総合教育会議までに社会教育委員のみなさまとも話をしながら考えていきたいと思います。

（町長）
　現在は行政としてもこれといった方向性が打ち出せていない状況ですが、頭を切り替えてこれからの課題に取組んでいき、町民のみなさまの豊かな生活を支えていきたいと考えており、是非、前向きに頑張っていきたいと考えています。本日はありがとうございました。

（司会）
　それではこれを持ちまして第２回総合教育会議を終了とさせていただきます。次回会議は１月２２日になります。

―会議終了―